

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること	・人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつこと

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音や促音などの正しい文字表記や活用の仕方に課題がある。ア ・自分の考えをどのように言葉で表現したらよいか分らず、活動になかなか取り組めない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟プリントやタブレット端末を活用した問題を用意し、繰り返し指導する。 ・表現するための語彙を増やすため、気持ちを表す言葉集めなどの活動を設定する。 ・表現しやすいように話型を提示するとともに、ペアの相手に考えを伝える場を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元、家庭学習 ・朝学習時や授業の導入時に週1~2回程度 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し学習したことで概ね定着したが、個人差が大きい。 ・話型の提示やペアでの交流を通して、自分の考えを発表できる児童が増えたが、考えを書くことについては課題が残る。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字に苦手意識をもつ児童が多い。ア ・友達の考えに興味をもって聞くことが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字スキルを活用して、新出漢字を覚えたかどうかを確認する機会を増やす。 ・ペアや小グループでの簡単なスピーチやインタビューで互いの話を聞く機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2~3回 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルを活用したことで、子どものやる気も上がり、テストへの意欲も高まり覚えやすかった。 ・ペアやグループに話すことで、自分以外の考えにも興味をもつようになったが、聞く態度に課題がある児童もいる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力が弱い。ア ・既習の漢字を習得できない児童が多い。ア ・友達との交流活動において学びの広がりが少ない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような読解問題(理由を答える等)に繰り返し触れるようにする。文章をよく読むことを徹底する。 ・漢字テスト前の自主学習を増やし、繰り返し漢字ドリルで練習させるようにする。 ・交流活動の目的を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や授業開始5分程度 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し「読む」を意識してきたが、定着には個人差が大きい。 ・朝学習等短い時間でも少し習熟する時間をとることで、集中して習得できるようになった。 ・ペアやグループ活動を増やしたことにより、自分の考えを広げることができ、自信をもって発表できる児童が増えた。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書く文章中で、既習の漢字を正しく用いることに課題がある。ア ・語彙が少ないため、交流活動の中で言葉を適切に使うことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を使う機会を意図的に設ける。 ・教科書「言葉のたから箱」を活用して、考えや気持ちを表す語彙を増やすとともに、ペアやグループで他者の考えや意見に触れる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて ・朝学習、毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を使う機会の設定や指導により、漢字を使おうと意識できるようになってきた。 ・「言葉のたから箱」や辞書を活用することで、語彙を増やすことができた。一方で、相手とのコミュニケーションの中で獲得した語彙を適切に使うことへの課題は残る。

<p>第5学年</p>	<p>・漢字の読み書き、短文を書くことに課題がある。 ア</p> <p>・文章を読み取って自分の考えをもち、相手に伝えることが課題。イ</p>	<p>・ドリルの音読、書き順の確認等を行う。</p> <p>・自分の考えをもつ場の設定、読み取る場面を絞ったり、自分の考えをもつ場の設定をしたりする。毎授業でペアやグループでの意見交換を行い、考えを伝える場を設ける。</p>	<p>・朝学習</p> <p>・毎単元</p>	<p>・ドリルの音読をすることで読みは定着してきた。書くことへの抵抗感が強いめなかなか定着せず、個人差がある。短文を書く際に主語、述語の関係を捉えることが難しい。</p> <p>・様々な学習形態で読み取ることで、友達の意見を参考にしながら自分の考えをもてるようになった。グループ内では自分の考えを伝えられている。</p>
<p>第6学年</p>	<p>・文章を書くときに、意味が通っていない文章を書く児童がいる。ア</p> <p>・自分の考えを伝えられる児童とそうでない児童に偏りがある。イ</p>	<p>・短文づくりや作文を書く機会を設ける。下学年の文法についての復習プリント等を利用して、補充を図る。</p> <p>・隣の人と考えを交換してから全体の交流をするなど、スモールステップで話し合いをする。</p>	<p>・朝学習や授業開始5分程度</p> <p>・毎単元</p>	<p>・卒業文集の制作などを通して、文章の作り方について具体的に指導した。普段の授業や朝学習で、定期的に文章を書く機会を確保することが課題である。</p> <p>・考えを交流する時間を多く設定することで、自分の考えを伝えられる児童が増えた。</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年 写真や動画などを用いることで、言葉のイメージをもてるようにする。 【重点:個別】</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、考えの形成でまとめたものを共有し、他の児童の考えや書き方などの良い点を取り入れる。 【重点:個別・協働】</p> <p>5・6年 タブレット端末を活用し、考えの形成でまとめたものを共有し、さらに分類・整理をする。自分との相違点や共通点を知る。 【重点:個別・協働】</p>	<p>1・2年 単元を通した言語活動を設定し、成果物(下書きを含む)を記録として残すことで、視覚的に振り返りができるようにする。</p> <p>3・4年 単元を通した言語活動を設定し、ワークシートを活用した学習計画と毎時間の振り返りを確保する。</p> <p>5・6年 単元を通した言語活動を設定するとともに、ワークシートを活用した学習計画及び学習課題を設定する。また、毎時間の振り返りを基にした単元末の振り返りを確保する。</p>

社 会

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べ、まとめること	・社会的事象について考えたことや選択、判断したことを適切に表現すること

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に興味・関心はあるが、そこから自分の課題を見付け広げていくことが難しい児童が多い。ア ・課題に挙げられている問題をイメージしたり、意識して問題を解決したりできない。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に興味・関心を引き付けられるような動画や写真を授業の中で使い、自ら学ぶ意欲につなげる。 ・思ったことをノートに記述したり、友達との交流場面を増やしたりして、知識を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・毎時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真から読み取る学習を増やしたことで、比べたり、違いを見付けたりできるようになった児童が増えた。 ・グループ学習を増やしたことで、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深めることができてきた。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から必要な情報を読み取ること、また、ある事実は何の資料から分かるのか選ぶことに課題がある。ア ・社会的事象に自分事として関わったり、考えたりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいや目的を明らかにし、資料を適切に読み取れるように指導する。 ・単元の導入で、学習問題を全体で共有する。再度、単元の終わりにも学習問題を確認することで、自分事として捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の適切な読み取りにつながる指導を継続したことで、力が向上してきた。 ・児童自らが学習問題を設定し、単元を通してその問題に向かっていくことで、社会的事象への関心が高まった。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る力に課題がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にグラフを扱う際には、縦軸や横軸を中心に読み取り方についての指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容に応じて、その都度 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りに重点を置いたことで、資料を読み取る力が高まってきた。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集から読み取ったことをノートにまとめる際に、丸写しする傾向がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用し、必要に応じて適切に使えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習やまとめの学習時 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールの例を紹介したり、児童のノートの書き方の例を紹介したりすることで、工夫してまとめる児童が増えた。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、写真や動画で記録したり、自分たちが調べて分かったことをまとめたりする。【重点:個別】</p> <p>5・6年 調べて分かったこと、考えたことについてタブレット端末を活用してまとめ、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:個別・協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>3・4年 身の回りの事象から、学習問題を設定する。 学んだことを学習問題と照らし合わせ、振り返る時間を設定する。</p> <p>5・6年 自分の調べたことが学習問題の視点に合っているか、こまめに振り返る時間を確保する。</p>
---	---

算 数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについて理解し、日常の事象を数理的に処理すること	・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察すること

児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年 ・ひき算の計算ミスが多い。ア ・文章問題が理解できず、立式できない児童がいる。イ	・ブロックを操作して視覚的・感覚的に捉えられるようにする。 ・計算プリントや計算カード、アプリケーションの「ミライシード」を活用して、繰り返し練習する。 ・挿絵を使って問題を視覚化したり、大事な言葉に線を引いたりしてから問題に取り組むようにする。	・計算単元時 ・朝学習、授業開始5分 ・年間を通じて	・復習の場面を多く設定することで計算ミスが減ってきたが、個人差がある。 ・問題を解くための手順(音読→大事な言葉に下線)を反復したことで、自分で立式できる児童が増えたが、個人差が大きい。
第2学年 ・筆算の手順が身に付かない。ア ・文章問題を読み取ることが困難。イ	・筆算の練習と並行して、タブレットを活用して、1年生で学習した繰り返し下がりや繰り返し上がりの計算練習の復習を行う。 ・問題文を音読し、分かっていることと分からないことを整理したり、図を描いたりするなど、解決のステップを指導する。	・年間を通じて ・各単元	・宿題のプリント等で場面を多く設定したが、個人差がある。 ・やり方を提示し、ステップを踏めるよう指導したが個人差がある。
第3学年 ・文章問題を正しく読み取ることができず、諦めてしまう児童が多い。ア	・文章問題を解く際は順序立てて、聞かれていることは何かサイドラインを引いたり、大事な数字にチェックをしたりして問題のイメージをつかませる。	・各単元(学習内容に応じて)	・問題の大事な言葉や数字に着目し、サイドラインを引くなど聞かれていることを意識することで、立式できる児童が増えたが、個人差がある。
第4学年 ・分度器の扱いや角の読み方、測り方、また、わり算の筆算の仕方や、わり算につながる九九の習得などに課題がある。ア ・問題場面や学習課題を正しく把握することができず、解決の見通しをもてないことが課題である。イ	・単元の導入に既習事項の確認や復習を行う。 ・授業や家庭学習で復習に取り組む。 ・見通しを児童にもたせるために、既習事項と結び付けたり、図を用いたりする。 ・自分の考えや解法を相手に伝える活動を増やすことで、表現したり能動的に学習に取り組んだりできるようにする。	・毎単元 ・毎時間 ・毎単元	・復習に取り組んだことで技能を高めた児童が増えたが、個人差がある。 ・既習事項や図の提示により、解決の見通しをもって学習課題に向かうことができるようになった。一方で、自分の考えを相手に伝えることには課題が残る。
第5学年 ・基本的な四則計算のつまずき、計算ミスが多い。ア	・計算力を高めるために、アプリケーションの「ミライシード」に繰り返し取り組ませる。授業開始時や終末に数問の計算問題に取り組ませる。	・毎時間開始、もしくは終末に5分程度	・授業の開始時、終末に計算問題を取り入れてきたが、特にわり算の計算に課題が見られる。仮の商をたてるのが難しい児童が多い。

第6学年	・約分を最後までし切れない児童が多い。ア	・アプリケーションの「ミライシード」などを活用し、定期的に既習事項の復習をする。	・朝学習時、授業時間内週2～3回程度（特に、計算単元の前）	・計算単元の際には、児童の計算力に応じて既習事項の復習をした。大半の児童は約分を最後までできるようにになったが、九九が定着していない児童は約分にたどり着くことが難しい。
	・文章問題で、立式できない児童がいる。イ	・数直線を描いて式を立てることを徹底して指導する。	・各単元(学習内容に応じて)	・数直線を書くことを教えたが、徹底しきれなかったことが課題である。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1・2年 タブレット端末を活用し、アプリケーションの「ミライシード」や、「ロイロノート」で作成した簡単な計算問題等に取り組み、学習内容の習熟を図る。【重点:個別】</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、学習問題に対する考え方を共有する。【重点:協働】</p> <p>5・6年 タブレット端末を活用し、学習問題に対する自分の考え方について、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:個別・協働】</p>	<p>1・2年 めあてを板書し、振り返りでできるようになったことを確認する時間を設定する。</p> <p>3・4年 自分の考えをめあてと照らし合わせ、振り返る時間を設定する。</p> <p>5・6年 学習問題に対し、筋道を立てて考察することができたか、振り返る時間を確保する。</p>

理 科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること	・観察、実験などを行い、問題解決の力を養うこと

児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
<p>第3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得られた結果を基に考察することが難しい児童が多い。ア ・目的をもって実験に取り組んでいるが、問題解決をしている意識は低い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れるまでは考察の話型を用意して、記述の仕方を分かりやすく提示する。 ・「こうしたらどうなるだろう」という発見への意欲をもてるように、動画を見せたり、視覚的に興味を沸かせるような導入の工夫をしたりしてやってみたいという意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・毎単元導入時 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から考察に書く内容を提示したり、一連の学習の流れを意識したりすることで、徐々に考察が書けるようになった児童が増えた。 ・予想に理由を付けることで、「どうなるのだろう。」という興味関心をもって実験に取り組めた児童が多い。実際に育てたり、観察したりする活動が多く児童の意欲を高められた。
<p>第4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気や水の性質、星の明るさや色の違い、電池の働きなどの理解に課題がある。ア ・目的やねらいを意識して実験に取り組むことや、実験の技能の定着に課題がある。ア ・事象から問いを見いだすことや問題解決の見通しをもつことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から分かることを全体で共有しながら、自分で説明できるようにする。 ・一人一人が実験できる機会を保証し、自分の予想に基づいて実験できるようにする。 ・予想の視点を児童が意識できるように提示し、生活経験に基づいて予想がもてるようにする。 ・単元の導入で、児童が実体験を通して問いをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元(実験単元) ・各単元(実験単元) ・毎単元 ・毎単元導入時 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で結果を振り返り、個々に説明をする時間を取ることで、学習内容を理解することができた。 ・一人一人が実験に取り組むことで、目的やねらいを意識し、技能を定着させることができた。 ・予想の視点を提示したり、生活経験から予想を立てるよう指導したりすることで、問題を見出し、解決の見通しをもつことができるようになった。
<p>第5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習の流れは身に付いている。考察を書く際に根拠となる実験結果が記せていない児童が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の見通しを立ててから実験・観察に取り組む。また、考察を書く際には予想に対してどうであったか、根拠となる結果、問題に対する答えの3つをまとめるよう型を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察に書く内容を毎回確認することで、根拠となる実験結果を明確にした上で、自分の力で考察を書ける児童が増えた。
<p>第6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考察を書く際、結果と考察を混同している児童がいる。イ ・難しい内容を理解しきれていない。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の書き方の例文を提示し、その都度指導する。 ・単元の最後に、学習内容をまとめる時間を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・学習内容に応じて随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の書き方の例文を参考にしながら考察を書ける児童が増えた。 ・単元のまとめの時間を設定することが学習内容を理解することにつながった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3・4年 タブレット端末を活用し、実験結果を記録する。
【重点:個別】
5・6年 タブレット端末を活用し、共有した結果について話し合い、考察する。【重点:協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3・4年 学習問題を解決するためにはどのように学習を進めていけばよいのか、見通しをもつ時間を確保する。
5・6年 学習問題に対する予想の時間を確保し、考察や結論の際に予想と照らし合わせて振り返る時間を設定する。